

桑名警察署協議会議事録

令和8年度第1回桑名警察署協議会	
日 時 場 所	令和8年6月24日（水）午後3時30分～午後5時10分 桑名警察署3階会議室
出 席 者	1 警察署協議会委員 9名 鵜飼鈴委員、尾宮正浩委員、加藤ゆかり委員、 門野広一郎委員、谷利杏美委員、林敬二委員、 水谷勝之委員、山川真史委員、山下大貴委員 2 警察署 12名 署長、副署長、会計課長、警務課長、留置管理課長、 生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、 交通第一課長、交通第二課長、警備課長
傍聴者数	なし
公開・非公開の別	公開
議 事 概 要	
1 委嘱状交付 2 警察署協議会設置の経緯・運営要領等の説明（警務課長） 3 警察署長挨拶 4 警察署幹部及び警察署協議会委員自己紹介 5 警察署協議会会長・副会長の選出 警察署協議会委員の互選により、会長に山川委員を選出した。会長が 山下委員を副会長に指名した。 6 管内治安情勢（警察署長） （1）犯罪情勢 （2）交通事故情勢 7 協議内容 （1）三重県警察の採用について（警務課長） （2）速度取締り指針の説明（交通第二課長） 8 質疑応答 （1）桑名署管内の特殊詐欺について ＜委員＞ （管内犯罪情勢の説明において特殊詐欺被疑者の検挙があ ったことを受けて）被害者は桑名署管内の住民であると思 うが、逮捕された犯人は管内の住民ではないということか。 【署長】 被害に遭ったのは桑名署管内の住民であるが、逮捕した犯 人は管内に住んでいる者とは限らない。 （2）特殊詐欺防止に関するアプリについて ＜委員＞ スマートフォン用の国際電話をブロックするアプリは知 っていたが、警察庁の推奨アプリは初めて見た。以前からあ ったものなのか知りたい。 【生活安全課長】 昨年の12月にアプリの発表をし、今年の3月から 実際にアプリがダウンロードできるようになった。経緯とし て、最近は固定電話を通じてだけでなく、携帯電話へのアク	

セスが増えてきたことから、警察庁が業者にアプリ開発を依頼したものである。

周知が行き届いていないところもあるので、積極的に広報啓発活動を行い、地域住民へアプリのダウンロードを促していきたい。

(3) 高齢者の交通事故対策について

＜委員＞ 高齢者の交通事故が多いと聞いているが、運転免許返納以外にも高齢者に対する対策はあるのか。

【署長】 短期間に3回の交通事故を起こした高齢者に対して面接を行い、運転免許返納の検討や運転機能の確認を実施している。

(4) 自転車の法改正について

＜委員＞ 本年4月から自転車の法改正があったが、桑名署管内で検挙事例はあるのか。また、啓発活動はどうしているのか。

【交通第一課長】 いわゆる青切符による検挙はなく、現場で危険な運転をしている者がいれば、その都度、指導警告をしている。また、啓発活動については、未だ法規制が住民に行き届いていない部分もあるので、小中高の学校で学生に直接教養したり、企業や自治会での教養にも努めている。

(5) 交通取締りについて

＜委員＞ シートベルト、チャイルドシート非着用に対する指導取締りは具体的にどのようにしているのか。

【交通第二課長】 街頭活動等を通じ、未着用の者がいればその都度対応している。

＜委員＞ シートベルトを着用していない者はどれくらいの割合なのか。

【交通第二課長】 ほとんどの者はシートベルトを着用しているが、近く場所へ買い物に行ったりと短い距離を運転する場合にシートベルトをしてない場合が多い。

【署長】 全国調査では98パーセントの方がシートベルトを着用しているという統計もある。

桑名署で今年発生でした4件の交通死亡事故では2件がシートベルト未着用であった。引き続き取締りを実施していく。

＜委員＞ 飲酒運転をしている者の年代はどうなっているか。

【交通第一課長】 正確な統計を取ったわけではないが、40代以上が6割程度を占め、20代の若年層では少ない。

また、高齢になるほど飲酒運転に対する認識が薄くなるのか、少しの距離なら大丈夫であると考え、飲酒運転で事故を起こすケースが目立つ。

9 警察署長謝辞

備考	報道機関なし
----	--------